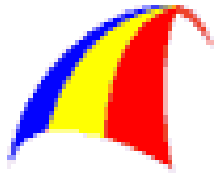


令和6年1月

座談会御書

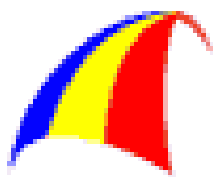
崇峻天皇御書

* * 地区



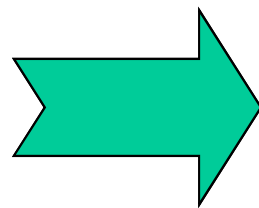
背景と大意

- ・建治三年九月 五十六歳御作
- ・三種財宝御書 与四条金吾
- ・江間氏より退転を迫られる
- ・江間氏の治療により打開
- ・「心の財」を積むことが大事
- ・仏法の究極は人の振る舞い



世間の心ね

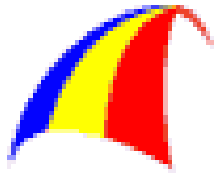
主君のため
仏法のため



社会で**実証**
正義を**証明**

御みやづかいを法華経とをぼしめせ

- 勇気の信心で**社会に実証を**
- **勝利の人生こそ正義の証明**



蔵の財よりも身の財

蔵の財

財産・地位・名誉

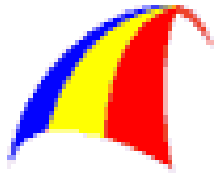
お金で得られる
失い易い

身の財

才能・学識・健康

お金で得られない
失い難い

財産や地位は失えば空しい
健康や才能は一生の財産

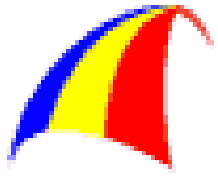


身の財より 心の財

心の財 人間性
生命力・智慧・最高の境涯

信心によってのみ得られる
三世永遠にわたり壊されない

広布に生き、心の財をつもう
仏の智慧で輝く人生を！



指導より

- 心の力は無限である
- 蔵の財や身の財が剥奪されても
心の財があれば生命は歡喜する
- 心の財は永遠に我が身を莊嚴

師と共に広布の道を
学会活動で心の財を貯蓄